



# 飯塚市教育委員会事業評価結果報告書

(令和2年度分)

## ～本物志向・未来志向のひとづくりのために～

- かしこく やさしく たくましい 子どもたちの育成
- いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり
- 個性豊かな 新しい文化の創造
- 次代の飯塚市を担う ひとづくり

令和3年11月

飯塚市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	・・・・・・・・・・ P 1
II	飯塚市教育委員会について	・・・・・・・・・・ P 1
III	教育委員の活動状況	・・・・・・・・・・ P 2
	1 教育委員会会議	
	2 研修会等への参加状況	
IV	令和2年度事業評価	・・・・・・・・・・ P 4
	1 点検・評価について	
	(1) 点検・評価する事業の対象	
	(2) 点検・評価の方法	
	(3) 結果の取扱い	
	2 全体評価結果	
	(1) 全体集計結果	・・・・・・・・・・ P 4
	(2) 外部評価講評	・・・・・・・・・・ P 5
	3 取組施策別評価結果	
	(1) 学校教育	・・・・・・・・・・ P 7
	(2) 社会教育	・・・・・・・・・・ P 11
	(3) 事務事業に係る点検・評価一覧表	・・・・・・・・・・ P 15
	(4) 点検及び評価シート（各課提出）	・・・・・・・・・・ P 16
●	参考資料	
	令和2年度教育委員会会議付議議案等一覧	・・・・・・・・・・ P 32

＜本報告書作成にあたり外部評価いただいた方々＞

福岡教育大学特任教授 主税 保徳

元小学校校長 森山 一昌

## I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすために、令和2年度の飯塚市教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、教育に関し学識経験を有する者の意見を付して、報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 飯塚市教育委員会について

### 【組織、構成】

都道府県及び市町村等に置かれる行政機関のひとつで、教育長及び4人の教育委員をもって組織される合議制の執行機関であり、学校教育、生涯学習、文化等に関する事務を担当しています。

### 【教育長の任命】

市長の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するもののうちから、市長が議会の同意を得て任命し、その任期は3年で、再任できることとなっています。

### 【教育委員の任命】

市長の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が議会の同意を得て任命し、その任期は4年で、補欠委員の任期は前任者の残任期間となります。また、委員は再任できることとなっています。

### 【運営等】

教育委員会は、大局的な見地から教育行政の基本的方針を決定し、その方針決定を受け、教育長が事務局を指揮監督して具体的な事務を執行する仕組みとなっています。

### 【飯塚市の教育委員会】

職名	氏名	現在の任期
教育長	武井 政一	令和 2年4月 1日～令和5年3月31日
委員(教育長職務代理者)	上田 敬子	令和 2年5月17日～令和6年5月16日
委員	大隈 恵子	平成 30年5月17日～令和4年5月16日
委員	高石 双樹	令和 元年5月17日～令和5年5月16日
委員	安永 卓生	令和 3年5月17日～令和7年5月16日

### Ⅲ 教育委員の活動状況

#### 1 教育委員会会議

教育委員会会議は、毎月1回の「定例会」と教育長が必要と認めたとき等に開催する「臨時会」からなっており、付議案件及び懸案事項などの審議を行い、教育行政の方針等を決定しています。

##### 【令和2年度開催状況等】

- ① 開催回数：15回（うち定例会12回、臨時会3回）
- ② 付議件数等：議決事項・・・ 41件 ※「参考資料」参照  
報告事項・・・ 33件 ※「参考資料」参照
- ③ 主な付議案件
  - 教育長職務代理者の指名
  - 令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択
  - 教育財産の用途廃止
  - 飯塚市学校施設長寿命化計画の策定
  - 飯塚市公民館条例施行規則等の一部を改正する規則
  - 飯塚市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則
  - 飯塚市立学校管理規則の一部を改正する規則
  - 目尾炭坑跡保存活用計画策定委員会設置要綱の制定
  - 飯塚市学校運営協議会委員の任命
  - 飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命
  - 令和3年度教育費に係る当初予算 etc
- ④ その他協議案件
  - 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に係る今後の対応について

#### 2 研修会等への参加状況

教育委員会会議以外にも、例年多くの公式行事への参加、学校の訪問・意見交換会、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。主に教育委員会事務局に案内や参加依頼があった研修会や、地域における様々な各種行事等へ参加しています。しかし、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症対策により、例年開催されている研修会等の多くが中止や延期となりました。

##### ◇会議・研修会等への出席

時期	名称	概要
令和2年 7月	第11地区中学校教科用図書採択協議会	令和3年度から使用する中学校教科用図書の選定・採択するもの
12月	令和2年度第1回飯塚市総合教育会議	議題：「教育観」の改革について、教育とデジタル化について、旧伊藤伝右衛門邸の保存と活用について、子ども図書館の創設について

令和3年 1月	飯塚市立小・中学校管理職冬季研修会	「本市が目指す学校教育」についての講話、「未来を担う子どもたちに必要な教育の方向性」についての講演
---------	-------------------	---

◇学校訪問・行事等への出席

時 期	名 称	概 要
令和2年 4月	小学校・中学校入学式	市立小学校 19校 市立中学校 10校
令和2年 4月 ～令和3年 3月	定例校長会議 臨時校長会議	円滑な学校運営を図るために、様々な教育課題について協議
令和2年 7月 令和2年 10月	学校訪問	上穂波小学校など各小中学校を訪問、授業視察等を踏まえ学校運営等についての意見交換
令和2年 10月 令和2年 11月	研究指定・委嘱校研究発表会	穎田小学校などを訪問、実践的な取組み等の研究発表会の視察
令和3年 3月	小学校・中学校卒業式	市立小学校 19校 市立中学校 10校

## IV 令和2年度事業評価

### 1 点検・評価について

#### (1) 点検・評価する事業の対象

飯塚市教育施策要綱に掲げる主要施策を達成するために取組んだ、主な事業を対象としています。

#### (2) 点検・評価の方法

(1)に係る事業ごとに、必要性、効率性、公平性の観点からその達成度について、それぞれの所管課・部署が自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者の方々に外部評価をいただきました。

外部評価については、教育に関し学識経験を有する者で、公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、教育系大学の教授と元小学校校長、計2名の方に評価をいただきました。また、事業ごとに評価者と各所管課との間で書面にてヒアリングを実施し、各事業の達成度や成果等について意見聴取を行いました。

この点検・評価においては、事業ごとにその達成度・成果等に応じて、評価者2名の合議のもと、A（達成している）、B（概ね達成している）、C（課題がある）、D（事業見直しが必要）で評価しています。

#### (3) 結果の取扱い

評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについても検討していきます。

### 2 全体評価結果

#### (1) 全体集計結果

飯塚市教育施策要綱に掲げた主要施策を達成するために、令和2年度に実施した事業の中で、事業の必要性や継続性等の観点から学校教育分野で5事業、社会教育分野で5事業の計10事業の選定を行い、外部評価者より評価をいただきました。

その結果、目標達成度は次の表のとおり、「A 達成している」が6事業で60%、「B 概ね達成している」が3事業で30%、「C 課題がある」が1事業で10%、「D 事業見直しが必要」は0事業でした。

《評価結果集計表》

( )内は率

評価 区分	A 達成	B 概ね達成	C 課題がある	D 要事業見直し	全 体
学校教育	4	1	0	0	5
社会教育	2	2	1	0	5
計	6 (60%)	3 (30%)	1 (10%)	(-)	10 (100%)

## (2) 外部評価講評

□ 福岡教育大学特任教授 主税 保徳

令和2年度に実施された10の事業について検討し評価を行いました。令和2年度は、これまでに経験したことがない新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、各事業においてもその影響を受けています。しかし、事業の縮小や中止に追い込まれる中でも、万全の防止対策を講じたり、新たな取組等を生み出したりしていることは、特長の一つとして挙げるができます。その結果、学校教育・社会教育の各5事業、合計10事業においては、「達成・概ね達成」9件、「課題がある」1件であるが、全体的には適切な実施であったと評価することができます。以下、主な事業について、分析・考察を提示します。

学校教育分野について、「ICT活用指導力の向上に係わる取組」では、研修会を組織的・計画的に実施するとともに、ICT研究指導員やGIGAスクールサポーターを小中学校に派遣し、授業レベルでの研修や授業支援を展開しています。今後は、各学校のICT活用による授業実践例の収集と共有化にも努めて頂きたい。「学校給食を通じた食育の推進」では、郷土料理等の食文化、おやつのとおり方、給食レシピの紹介などの身近な食生活の場面を取り込むことにより飯塚市全体の取組につながっています。事業等の目標値の設定については、今回残滓率を取り上げているように、今後も児童・生徒の変容等に関する新たな目標値の追加設定を望みます。「外国人児童生徒教育支援事業」では、取り出し指導や入り込み指導を展開し、目標達成率は100%です。児童・生徒や保護者が、日本語指導に対する期待感や満足感を実感している証です。「就学援助制度の実施」では、市報・ホームページ等の掲載、就学時健診時に説明用紙の配布、全児童生徒の保護者あてに申請書の配付などを行い、幅広く継続的な周知方法と保護者の手に直接届く周知方法を徹底することにより保護者の認知度は高まっています。「小学校英語教育推進事業」では、オンラインによるネイティブ講師との英会話レッスンを推進しています。飯塚市独自の施策として大いに評価することができます。児童のアンケートからも好評であり、今後も指導方法の改善とともにさらなる事業の継続・発展を望みます。

社会教育分野について、「PTAと連携した家庭教育推進事業」では、飯塚市小中学校PTA連合会を中核にした活動が成果を上げています。令和2年度は家庭教育講演会が中止となったが、その代わりに作成した「家庭教育実践集」は、今後のPTA活動に対して活用できる内容となっています。「図書館事業に関する理解と関心の普及・啓発、図書館イベント等の実施」では、市全体を視野に入れて読書活動を推進しています。「放課後子ども教室や児童クラブ等との連携」では、生涯学習課と学校教育課がそれぞれ所管して独自の事業を展開しています。二つの事業がともに成果を上げていることは、学社連携の相乗効果を現していると考えられます。「公共施設における様々な文化芸術の充実」では、飯塚市文化振興マスタープランに基づいて推進しています。また、専門的に活動している団体との連携は、事業の質の向上につながるとともに、本事業が市全体に拡大していくことも期待できることから今後も引き続き連携を強めて頂きたい。「歴史講座等の開催」では、身近な歴史・文化財に直接触れる機会があれば、興味・関心が高まり持続可能な活動につながります。今後は、他地域のイベントの紹介等にも力を注いで頂きたい。飯塚市以外の貴重な文化資源に触れることにより、地元の文化財に興味・関心を抱く機会になるからです。

□ 元小学校校長 森山 一昌

令和2年度に実施した学校教育分野の5事業と社会教育分野の5事業について、各課の自己点検及び評価シートに基づき評価を行いました。全体的な評価としては、概ね適切に実施されたと思われます。以下、各事業についての評価の概要を述べます。

学校教育分野について、「ICT活用指導力の向上に係る取組」では、ICT研究指導員やGIGAスクールサポーターの活用、ICT活用指導力の向上を図る教員研修は評価できます。今後は、ネットワーク等の環境整備を行い、全小中学校の全学級でオンライン授業が実施できるようになることを望みます。「学校給食を通じた食育の推進」では、「食育いっぴか」「配膳カレンダー」「日本各地の郷土料理についてしろう」「食育めざしの日」などは、児童生徒が食に関心を持つようになる資料として大変価値があります。今後も児童生徒が、日本の食糧問題や自分の食生活に関心を持つことができるような取組を期待します。「外国人児童生徒教育支援事業」では、日本語の指導だけではなく、教科の補充学習や一斉学習時の補助も行っていることは評価できます。今後も、地域の方や日本語指導の専門性を持つ外部の方の協力を得ることは大いに考えられます。「就学援助制度の実施」では、毎年認定者の数が増えているのはコロナ禍等が原因と思われますが、就学援助制度の市報、ホームページ、SNSを活用した市民への広報の成果だと思われます。今後は、小中学校だけではなく、保育園、子ども園、幼稚園との連携を密にして頂きたい。「小学校英語教育推進事業」では、ネイティブ講師のマンツーマン指導によるオンライン学習で、5、6年生の児童が表現を工夫しながら相手に伝えようとする姿が見られるようになったことは評価できます。コミュニケーション能力を、アンケートの数値だけで評価することは困難です。今後は、小学校と連携してコミュニケーション能力の評価基準を明確にし、多面的に評価していく必要があります。

社会教育分野について、「PTAと連携した家庭教育推進事業」では、家庭教育講演会の代わりに、各単P（各学校のPTA）が取り組んだ1年間のPTA活動の内容を家庭教育実践集として発行したことは、大いに評価できます。今後PTA会員の減少が危惧されますが、今後は、今まで以上の連携、支援、助言等を行っていく必要があります。「図書館事業に関する理解と関心の普及・啓発、図書館イベント等の実施」では、市民のニーズに応じて様々な取組がなされたことは評価できます。今後は、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいユニバーサルデザインの図書館事業が展開されることを期待します。「放課後子ども教室や児童クラブ等との連携」では、放課後子ども教室が15年継続されてきたことは大いに評価できます。今後は、15年間の成果を調査研究し、市民に広報することが必要です。放課後子ども教室と児童クラブの運営は、関係各課と学校、現地スタッフが連携し、共通した新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取っていくことが必要です。学校、放課後子ども教室、児童クラブの合同連携会議は、オンライン会議も検討しながら実現できるよう努力してください。「他の公共施設における様々な文化芸術の充実」では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、小学校児童画展を中止した代わりに、「筑豊ゆかりの絵画展」等を開催したのは評価できます。今後は、オンラインによる事業などコロナ禍に対応した取組もしてもらいたいと思います。「歴史講座等の開催」では、歴史講座、古文書講座、おもしろ体験歴史館は、受講者のニーズに合った取組です。今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとり、受講者のニーズに合った取組を期待します。





## ☆学校給食の充実

安全・安心な給食の提供に努めるとともに、献立内容の工夫・改善や給食指導の充実等により学校給食を通じた食育を推進します。

No.	2		
事業等	食育通信、献立表（毎月発行）による学校給食を通じた食育の推進		
所管課	学校給食課	評価	A
意見等	<p>小中学校の学習指導要領総則編で「児童・生徒の心身の調和的発達を図るためには、運動を通して体力を養うとともに、食育の推進を通して望ましい食習慣を身に付ける等、健康的な生活習慣の形成が必要である。」また「自然の恩恵・勤労などへの感謝や食文化などについても教科等の内容と関連させた指導が効果的。」との記述があり、飯塚市の食育の推進は、学習指導要領で示されている食育のねらいと整合性が図られている。また、食の安全性から栄養のバランス、郷土料理等の食文化、おやつの取り方、給食レシピの紹介など身近な食生活の場面を取り込んだ食育を推進することにより飯塚市全体の取組にもつながっている。</p> <p>「献立表」「食育いづか」「配膳カレンダー」「日本各地の郷土料理について知ろう」「食育めざしの日」などの発行物は、フリガナを記し絵図を取り入れるなど、読みやすく分かりやすい工夫がされ、児童生徒だけでなく保護者も食に対する興味関心を持つ資料となっており、定期的な配布やホームページにおける公開などが行われており目標達成率 100%と評価できる。また、飯塚産食材に限らず、日本各地の郷土料理や世界各国の料理の献立は、児童・生徒にとって食に関する興味・関心を高めるとともに魅力ある学校給食に結びついており、食育推進の成果として給食残滓率の減少にも現れている。</p> <p>「飯塚の台所」が掲載されている献立表は、児童生徒に食料自給率の向上につながる地産地消の取組にも関心を持たせることが出来ており、今後も創意工夫した企画を実現させ更なる食育の推進をされたい。</p> <p>現在は発行物やホームページの更新回数を目標値として設定しているが、今回取り上げられている残滓率の数値など、児童・生徒の変容等に関する目標値の追加設定についても検討していただきたい。</p>		

## ☆外国人児童生徒等への支援

日本語能力が十分でない子どもたちが日本語で学校生活を営み、学習に取り組めるよう外国人児童生徒への教育支援の充実を図ります。

No.	3		
事業等	外国人児童生徒教育支援事業の実施		
所管課	学校教育課	評価	A

意見等	<p>飯塚市では、日本語指導の必要な児童・生徒は年々増加しており、きめ細かな支援や指導は喫緊の課題である。また国籍もアメリカ、フィリピン、インドネシア、中国と多様化している。通常の授業においては、教科学習内容の理解が不十分、教師の指示・説明が正確に伝わらないという実態も想定でき、そのため取り出し指導や入り込み指導を継続的に展開されている。具体的な指導においては、児童生徒個々の状況に応じた日本語指導や教科の補充学習等を行う取り出し指導と、一斉学習場面での教師の指示や説明を児童生徒に分かりやすく伝えたり、学習のつまずきに応じた支援を行ったりする入り込み指導の2つの指導形態が構築されている。令和2年度より日本語指導支援員が配置され、より手厚い指導が出来るようなり、日本語の指導及び一斉学習時の補助を行っており評価できる。</p> <p>令和2年度は、9名の入級申請の全てを受け入れて日本語指導を行う事ができ、目標達成率は100%である。このことは在籍学級において学習が出来るようになったという実態からも裏付ける事ができる。また日本語を必要としている児童生徒や保護者が日本語指導に対する成果や期待感、満足感を実感している証でもある。</p> <p>外国人児童生徒の国籍や帰国児童生徒の在住国の多様化が進んでおり、今後も本市の日本語指導教室の在籍者の人数は増加傾向にあるため、一人当たりの指導・支援の時間数が減少することも予想できる。そのため、日本語指導担当教員の増員や支援員の継続的な雇用など、人材面・財政面の課題はあるが、国・県の補助事業が終了しても継続し雇用できるよう努力していただきたい。</p> <p>また、今後の方向性として、飯塚市に居住する外国人児童生徒への継続的な教育支援を検討されていることは望ましい取組であるため、具体的な計画等の策定を期待する。</p>
-----	--

#### ☆安心して学べる就学援助等の充実

経済的な理由によって学びや進学の手続きが妨げられることのないように、子どもの学びを保障します。

No.	4	
事業等	就学援助制度の実施	
所管課	教育総務課	評価 A
意見等	<p>保護者の不安を解消し、児童生徒が安心して義務教育を受けられるようにするための就学援助制度の実施は、教育行政の施策の中でも最重要課題である。就学援助制度は、保護者の申請によって実施される。そのため、本制度の周知が鍵を握っている。飯塚市では、市報・ホームページ・SNSに掲載するとともに、小学校新一年生の就学児健診時や市立県立の小中学校に在籍する全児童生徒の保護者へ就学援助制度のお知らせと申請書の配布を行うなど、幅広く継続的な周知方法と保護者の手に直接届く周知方法の2つの方法により周知を図っている。</p> <p>毎年、認定者の数が増加しているのは、社会の経済状況も反映していると思われるが、本制度の周知徹底がなされているものと評価出来る。</p> <p>今後も、市報・ホームページ、SNSに加え、小中学校との連携は勿論のこと、保育園・こども園、幼稚園とも連携し、引き続き周知の徹底を図っていただきたい。</p> <p>また、目標値の設定については、事業等の目標値として、小中学校に在籍する要・準要保護の生徒数が挙げられているが、生徒数の何をもって目標に達成したか否かを判断するのが分かりにくいといった面がある。取組や事業の内容からは、就学援助の周知に焦点化しているので、周知率や前年度からの認定数の増加率を設定することも考えられる。一方、教育機会の保障や学びの保障という観点からの目標値の設定もある。ぜひ、今後の検討材料にしていただきたい。</p>	

## ☆英語をはじめとした外国語教育の推進

外国語でコミュニケーションを図る素質・能力を育成するため、英語力などの実践的な学習の充実を推進します。

No.	5		
事業等	小学校英語教育推進事業（オンライン英会話）の実施		
所管課	学校教育課	評価	B
意見等	<p>本事業は、小学校の5・6年生を対象に英語によるコミュニケーション能力の基礎を育成するために、オンラインによるネイティブ講師との英会話レッスンを1児童あたり月2回・年間20回、マンツーマンで行う英語活動であり、飯塚市独自の施策として大いに評価する事ができる。25分のマンツーマン英会話レッスンの前後に事前・事後の学習を計画し、学習の動機付けやフィードバックの時間を確保することにより、楽しい・分かりやすい・次の機会が楽しみなどの学習意欲や学習の満足感を生み出している。</p> <p>アンケート結果による事前・事後の結果は、「できる」「たぶんできる」の割合が目標値を大きく上回っており、児童の英語を通じたコミュニケーション能力が高まり、意欲と自信につながっていると考える。しかし、コミュニケーション能力のアンケート結果はいずれも目標値を達成しておらず、その評価基準を明確にせず、能力の目標値を90%にすることや、コミュニケーション能力をCanDo形式アンケート（子どもの自己評価）のみで測定することは課題があると思われる。目標値として子どもの学習評価を単純に設定するのではなく、オンラインによる学習環境(通信環境や学級のスケジュールリング)をどの程度保障するかなどのハード面を目標値にすることも検討する必要がある。</p> <p>本施策はオンラインで行われるため、ネット環境の改善・整備が重要である。今後もネットワーク等の通信環境の改善・整備が望まれる。</p> <p>令和4年度以降、プロポーザル方式での契約も検討されており、今後の小学校英語教育推進事業（オンライン英会話）の充実・発展を期待する。</p>		

## (2) 社会教育

### ☆学習成果を還元する活動等の支援

学習成果を表現する機会を増やすことで学習意欲を高め、相互の連携・連鎖による地域の「連帯感」が強固となるよう支援します。

No.	6		
事業等	PTA と連携した家庭教育推進事業の実施		
所管課	生涯学習課	評価	A
意見等	<p>これまで、各学校の PTA が行う活動は、保護者相互の連帯感や協働意識などを高める上で、とても重要な役割を果たしてきており、飯塚市は各学校の取組だけでなく、「飯塚市小中学校 PTA 联合会」を組織し、児童・生徒の健全な成長と PTA 会員の資質向上及び教育の振興を図ることを目的としているところに特徴がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響から開催中止となった「家庭教育講演会」の代わりに何か出来ることはないかと委員で協議を重ね、各小中学校の PTA が成人教育講座や親子で取組んだ活動等の内容をまとめた「家庭教育実践集」を作成したことは大いに評価できる。その PTA 联合会の前向きで積極的な姿勢が、新たな取組を生み出す結果になっている。これは PTA 联合会が日頃から日常的に組織として機能しているからであると思われる。</p> <p>実践集の出来映えもすばらしく、読みやすい文章に写真を付け加える等工夫がされており、各学校の委員会の活動も紹介されているため、他の学校が参考にすることにより、今後の PTA 活動がさらに充実していくことが期待できる。</p> <p>令和 2 年度はコロナ感染症拡大の影響から目標値を判断するのは難しいが、目標値の設定については、家庭教育講演会の年 1 回の実施とするのではなく、担当課として PTA 联合会に適切な指導及び助言を行うために、どの程度会議等に出席するか等目標値設定すること、また、PTA 活動の充実では抽象的であるので、具体的な目標値設定を検討する必要がある。</p> <p>課題について、小中学校の児童生徒数の減少による PTA 会員の減少は全国的な傾向であり、それに伴う PTA 活動の弱体化も懸念される場所であるが、それに反し、今後の学校教育は家庭・地域との連携や協働等が重要視されている。幸い飯塚市は小中学校 PTA 联合会という組織が機能しているため、今後の活動の充実のために今以上の積極的な支援を行い、さらなる、PTA 活動の充実・発展を期待する。</p>		

### ☆読書活動の推進

本との出会い、読書の楽しさを伝えるため、図書館ボランティアと連携・協力して読書活動を推進します。

No.	7		
事業等	図書館事業に関する理解と関心の普及・啓発、図書館イベント等の実施		
所管課	生涯学習課	評価	B

意見等	<p>読書活動は、生涯学習において重要な位置づけをなしており、それを担うのが図書館事業である。飯塚市においては、赤ちゃん期のブックスタート事業、幼児期から小中学校に続くおはなし会や各種子ども向け事業等を企画したり、一般市民対象に飯塚市立図書館の利用促進にも力を注ぐなど、市全体を視野に入れて読書活動を推進していると思われる。</p> <p>前年度との目標値の対比については、コロナ感染症拡大の影響により、図書館の利用状況は減少し、各種イベント等についても中止または縮小となっているため、このコロナ禍の状況では、利用者数や参加者数だけでは評価できないが、感染症拡大防止対策をしながら、市民のニーズに応じて様々な取組がなされていることは評価できる。そのような中、利用者がインターネット経由で利用できる電子図書「非来館型サービス」の導入についても検討が始まっており、望ましい取組として導入開始を大いに期待したい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大については未だ収束の見通しを持つことが出来ないが、今後も感染症拡大防止対策を十分に講じた上で、障がいの有無・年齢・性別・人種等に係わらず多様な人々が利用しやすい、ユニバーサルデザインの図書館事業が展開される事を期待する。</p>
-----	---

### ☆地域の人材及び大学・団体との連携の推進

地域の人材を活用して、積極的に高齢者や地域住民との交流を図るとともに、学社連携を推進します。

No.	8	
事業等	放課後子ども教室や児童クラブ等との連携	
所管課	生涯学習課	評価 C
意見等	<p>飯塚市では学社連携について、放課後子ども教室を生涯学習課が、放課後児童クラブを学校教育課が所管しており、明確な区別を行うことで、それぞれが責任を持つとともに施策の独自性を展開する事が出来ている。そのことにより放課後子ども教室では市内の児童を対象に各学校・地域と連携を深めながら学習活動・スポーツ文化活動を支援する一方、高齢者等との交流をもつことが出来ている。また放課後児童クラブでは、放課後に保護者が家庭に居ない児童を預かり、健全な遊び及び生活の場を提供している。これらは別々の事業を展開しているように見えるが、対象の中心は児童であることに変わりはなく、二つの事業がともに成果を上げていると思われる。</p> <p>放課後子ども教室の開催回数が目標達成率 36.5%となったことはコロナ禍の状況ではやむを得ないと思われる。開催回数を目標値とするなら、コロナウイルスの感染状況を踏まえた目標値を設定すべきである。また合同の連携会議が一度も開催されなかったことは課題があり、施策の大きな成果が期待できるだけに残念である。</p> <p>今後は、放課後子ども教室については、運営スタッフの確保のため、本事業の周知や成果等を飯塚市全体に広げ、安全管理サポーターの登録等に関する理解と協力を得る方策を考えていただきたい。また、放課後子ども教室と放課後児童クラブ・学校との合同連携会議の開催にむけ、開催要項の作成やオンライン会議を検討する等、是非実施の方向で早急に取組んでいただきたい。校区単位で設置されている運営委員会が機能するように、関係各課、関係団体が今以上に連携を密にすることが必要である。</p> <p>放課後子ども教室の事業は、スタートから 15 年が経過しているが、このままでは形骸化してしまう恐れがある。15 年間の取組の成果を調査研究し、市民に広報するなどの取組が必要である。このような取組が、運営スタッフの確保や、高齢者・子ども会指導者の協力強化にも繋がるとと思われる。</p>	

## ☆文化の振興

飯塚市文化振興マスタープランの基本理念である「個性豊かな新しい文化の創造」の実現に向けて文化芸術活動の充実を図ります。

No.	9	
事業等	文化会館や市庁舎をはじめとする他の公共施設における様々な文化芸術の充実	
所管課	文化課	評価 B
意見等	<p>個性豊かな新しい文化の創造は、今後の社会教育や健康年齢を伸ばす上でも有効な施策の一つである。そのため飯塚市では「飯塚市文化振興マスタープラン」にも明示し位置づけている。飯塚市文化会館や飯塚市役所本庁舎等の公共施設において、飯塚新人音楽コンクール等の文化芸術活動を実施しており、飯塚文化連盟や文化団体等の専門的に活動している団体との連携は、施策の質の向上につながるとともに、本事業が市全体に拡大していく要素を含んでいることから今後も連携を強めていただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止により、中止や縮小を余儀なくされた事業もあったが、中止事業の代わりに「筑豊ゆかりの絵画展」や「華道家元池坊飯塚橘支部市民公開巡回講習」を開催するなど対策を講じて事業を実施されたことは評価できる。</p> <p>中止となった「飯塚新人音楽コンクール」や「飯塚総合文化祭」等は、2年間の空白期間が生じることによる次年度以降の参加者の減少が生じないよう、事業の具体的な活動の紹介を行うなど、広報・周知活動を図っていく必要がある。</p> <p>今後もコロナ感染症対策を考慮して事業を実施していく必要があるため、オンラインによる事業実施等、コロナ禍においても文化芸術の発展に向けた取組をされることを期待する。</p>	

## ☆文化財保護の普及啓発

歴史と伝統に培われた貴重な文化資源を永く後世に伝えるため、文化財保護活動の充実や情報提供等、文化財に対する理解を深める施策を推進します。

No.	10	
事業等	歴史講座、古文書講座、体験学習等の開催	
所管課	文化課	評価 A

意見等

歴史と伝統に培われた貴重な文化資源を永く後世に伝えるための文化財保護活動の充実や情報提供等、文化財に対する理解を深める事業は、自らが直接触れる機会があれば、興味・関心が高まり持続可能な活動に繋がる可能性を秘めている。歴史認識の程度に応じた古文書講座や小中学生を対象としたおもしろ体験歴史館等、受講者のニーズにあった取組であると思われる。

コロナウイルス感染拡大対策のため、募集人数を例年より減らして実施したため、延べ受講者数は前年度より減少しているが、受講者のニーズにあったテーマで実施出来たため、古文書自主学習会への参加者が増加しており、歴史と伝統に培われた貴重な文化資源に関する関心が市全体に広がっていると思われる。ただし目標値の設定については、コロナ感染症拡大の状況を踏まえて設定すべきである。

今後もコロナ感染症対策を講じ、受講者のニーズにあった内容の取組みを期待する。また飯塚市に限定することなく、他地域へも視野を広げイベント紹介等にも力を注いでもらいたい。飯塚市以外の歴史と伝統に培われた貴重な文化資源に触れることにより、地元の文化財にも興味関心を抱く機会となるとと思われる。



事務事業に係る点検・評価一覧表（令和2年度実施）

区分	シート No.	取組施策等	評価 結果
学校教育	1	ICT活用指導力の向上に係る取組の実施	A
	2	食育通信、献立表（毎月発行）による学校給食を通じた食育の推進	A
	3	外国人児童生徒教育支援事業の実施	A
	4	就学援助制度の実施	A
	5	小学校英語教育推進事業（オンライン英会話）の実施	B
社会教育	6	PTAと連携した家庭教育推進事業の実施	A
	7	図書館事業に関する理解と関心の普及・啓発、図書館イベント等の実施	B
	8	放課後子ども教室や児童クラブ等との連携	C
	9	文化会館や市庁舎をはじめとする他の公共施設における様々な文化芸術事業の充実	B
	10	歴史講座、古文書講座、体験学習会等の開催	A

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 1

対象年度	2年度	所管課名	学校教育課																				
1 基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成																						
2 主要施策	1 確かな学力の育成																						
	1-2【ICTの活用による効果的な学習の推進】 ICTを活用した新たな学びの研究・実践を推進します。																						
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	ICT活用指導力の向上に係る取組の実施																					
	(2)事業等の内容	<p>児童生徒の情報活用能力の育成を図ったり、1人1台の学習用タブレット端末を効果的に活用したりするためには、教員がICTを効果的に活用できる力を高めることが重要な課題である。そこで、2つの方策を立てて、ICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>① ICT活用指導力の向上を図る研修会の実施 ② ICT研究指導員・GIGAスクールサポーターの活用</p>																					
	(3)事業等の目標値	<p>・教科指導におけるICT活用アンケートレベル1以上の割合 80%以上 ・職員研修の実施：10回、職員研修のサポート：8回、授業支援：540日、使用マニュアル等の作成：3種類</p>																					
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p><b>【取組状況】</b></p> <p>①研修会の実施 市内29小中学校の管理職や校内研修担当者を対象として、ICT活用教育研修会を実施した。また、各学校の情報担当者を対象に情報管理やロイロノートの使用方法に関する研修会を実施した。</p> <p>②ICT研究指導員・GIGAスクールサポーターの活用 ICT研究指導員が各学校を訪問し、授業の支援等を行った。 GIGAスクールサポーターによる校内研修（電子黒板の活用、端末等の操作方法等）の実施や、ICT機器の操作支援を行った。また、GIGAスクールサポーターには、日常的なICTを活用した授業支援に加え、活用マニュアルや活用方法の参考動画の作成・発信を依頼した。</p> <p><b>【成果】</b> 市内すべての小中学校で授業支援ソフトの使用法やデジタル教材の活用方法について共通理解を図り、運用を始めることができた。GIGAスクールサポーターを活用した校内研修会の実施後、各学校で積極的にICT研修会が実施され、アプリやツールを効果的に活用する教員が増えた。</p> <p><b>【目標値との対比】</b> ・教科指導におけるICT活用アンケートのレベル1以上の割合 《項目1：指導の準備・評価等におけるICT活用》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>レベル0</th> <th>レベル1</th> <th>レベル2</th> <th>レベル3</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容</td> <td>ほとんどの教員がICTを活用している</td> <td>ほとんどの教員が日常的にICTを活用している。</td> <td>すべての教員が、効果的にICTを活用している。</td> <td>学校全体でICTを活用した授業改善に取り組んでいる。</td> <td>レベル1以上の割合 96.6%</td> </tr> <tr> <td>学校数</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>28/29</td> </tr> </tbody> </table>						レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	割合	内容	ほとんどの教員がICTを活用している	ほとんどの教員が日常的にICTを活用している。	すべての教員が、効果的にICTを活用している。	学校全体でICTを活用した授業改善に取り組んでいる。	レベル1以上の割合 96.6%	学校数	1	11	13	4	28/29
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	割合																		
内容	ほとんどの教員がICTを活用している	ほとんどの教員が日常的にICTを活用している。	すべての教員が、効果的にICTを活用している。	学校全体でICTを活用した授業改善に取り組んでいる。	レベル1以上の割合 96.6%																		
学校数	1	11	13	4	28/29																		

《項目 2：教科等の指導における ICT 活用》

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3	割合
内容	ほとんどの教員が ICT を活用している	ほとんどの教員が日常的に ICT を活用している。	すべての教員が、日常的に ICT を活用している。	学校全体で日常的に ICT を活用し、より効果的な活用方法について研究している。	レベル 1 以上の割合 82.8%
学校数	5	14	3	7	24/29

「学校情報化チェックリスト」（日本教育工学協会）による調査結果より

※学校情報化優良校の認定基準：レベル 1 以上

↳ 教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校

・各目標値の達成率

内 容	R1 実績	R2 実績 (A)	R2 目標 (B)	R2 達成率 (A/B×100)
職員研修の実施	9 回	8 回	10 回	80%
職員研修のサポート	5 回	8 回	8 回	100%
授業支援	—	269 日	540 日	48.81%
使用マニュアル等の作成	—	3 種類	3 種類	100%

5 取組・事業の課題、今後の方向性など

【課題】

ICT 研究指導員の支援については、各学校からの要望に応じた訪問のため、学校の ICT 活用(訪問回数)にばらつきがある。

教員の ICT 活用指導力は着実に向上しているが、個人差や学校格差が大きい。また、ICT を活用することそのものが目的になる傾向もある。

【今後の方向性】

ICT 活用指導力を意図した研修会に情報モラル教育等の内容を組み入れ、更なる充実を図っていく。

また、ICT 活用の学校格差を是正するため、各学校のレビューやニーズ、業務報告書や成果物を集約し、情報共有を行い、全校展開を行っていく。

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 2

対象年度	2年度	所管課名	学校給食課
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成	
2	主要施策	3 健やかな体の育成	
		3-2【学校給食の充実】 安全・安心な給食の提供に努めるとともに、献立内容の工夫・改善や給食指導の充実等により学校給食を通じた食育を推進します。	
3	(1)事業等名	食育通信、献立表（毎月発行）による学校給食を通じた食育の推進	
	(2)事業等の内容	<p>日々の献立内容や使用食材、及び提供献立の目的とその栄養価等を周知するための「献立表」と、食育推進の啓発を目的とした「食育いづか」「配膳カレンダー」「食育めざしの日」「日本各地の郷土料理について知ろう」を毎月1回発行、各家庭へ配布し、学校給食と望ましい食生活への理解促進に取り組むもの。また、市ホームページにて「献立表」「給食レシピ」を掲載し、さらなる食育の啓発に努める。</p> <p>〔発行状況及びその回数〕</p> <p>① 「献立表」「食育いづか」「配膳カレンダー」「日本各地の郷土料理について知ろう」「食育めざしの日」の発行（毎月1回、年間11回発行）</p> <p>② 「献立表」「給食レシピ」のHP掲載（同上）</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>（発行物）毎月1回、年間11回発行</p> <p>（HP）毎月1回、年間11回更新</p>	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 「献立表」「食育いづか」「配膳カレンダー」「日本各地の郷土料理について知ろう」「食育めざしの日」を毎月1回発行し、また「献立表」「給食レシピ」を市ホームページに掲載することにより、学校給食への理解促進、及び食育推進の周知と啓発に努めた。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発行物 〔年間発行回数〕11回発行（通常は8月〈R2年度は5月〉を除く） 〔配布対象〕小・中学校等の児童・生徒等及び保護者</li> <li>・HP 〔HP更新回数〕11回更新（通常は8月、〈R2年度は5月〉を除く） 〔対象〕小・中学校等の児童・生徒等及び保護者、また、一般市民</li> </ul> <p>【目標値との対比】 計画通り、毎月1回、年間11回発行及びHP更新ができた。 （目標達成率100%）</p>	

<p>5 取組・事業の課題、 今後の方向性など</p>	<p><b>【課題】</b>  毎月配布物等による食育推進の啓発により、残さい率減少にもつながっているものと思慮する。今後も、学校給食を通じた食育の推進のため、児童・生徒の食への関心・理解を深めるよう配布物等の内容の充実に努め、学校給食への理解促進及び食育の周知・啓発を継続する必要がある。</p> <p><b>【今後の方向性】</b>  毎月発行している「配膳カレンダー」では、日々の献立の使用食材や栄養素についてわかりやすく解説し、児童・生徒が興味を持って食育について学ぶ機会になっていると思慮する。また、毎月1回「いいつかの台所」という企画を設け飯塚産の農産物を献立に取り入れ給食を実施したり、他にも様々なテーマを設けることで、より一層給食への理解を深め食育の啓発に努めている。今後も本市学校給食の充実及び食育推進を図る活動を継続していくことが必要である。</p>
---------------------------------	---

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 3

対象年度	2年度	所管課名	学校教育課																					
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成																						
2	主要施策	7 特別なニーズに対応した教育の推進																						
		7-2【外国人児童生徒等への支援】 日本語能力が十分でない子どもたちが日本語で生活を営み、学習に取り組めるよう外国人児童生徒への教育支援の充実を図ります。																						
3	(1)事業等名	外国人児童生徒教育支援事業の実施																						
	(2)事業等の内容	飯塚鎮西小学校を拠点校とし、日本語指導の必要な児童生徒への取り出し指導・入り込み指導を行うものである。取り出し指導においては、児童生徒の個々の状況に応じた日本語指導、教科の補充学習等を行い、一斉学習場面での入り込み指導では、教師の指示や説明を児童生徒に分かりやすく伝えたり、学習のつまずきに応じた支援を行ったりしている。																						
	(3)事業等の目標値	日本語指導教室入級児童生徒数／日本語指導教室入級申請児童生徒数 100%																						
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>拠点校の児童生徒は通級、兼務校へは巡回を行い、学級の担任教諭と連携しながら、児童生徒の日本語能力に応じた週1回の取り出し指導や入り込み指導を行い、日本語能力の育成、教科の学習補充を行っている。</p> <p>【成果】</p> <p>継続的な日本語指導により、在籍学級で学習ができるようになった。令和2年度から配置した入り込み支援員により、教科の学習でつまずいている児童へのきめ細やかな支援を実施できている。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>※令和2年度実績 新規入級児童生徒数9名、新規入級申請児童生徒数9名 目標達成率 100%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入級児童生徒数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>新規入級申請児童生徒数</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td>100</td> <td>86</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>在籍児童生徒数</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>				平成30年度	令和元年度	令和2年度	新規入級児童生徒数	6	6	9	新規入級申請児童生徒数	6	7	9	達成率(%)	100	86	100	在籍児童生徒数	14	19	21
	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
新規入級児童生徒数	6	6	9																					
新規入級申請児童生徒数	6	7	9																					
達成率(%)	100	86	100																					
在籍児童生徒数	14	19	21																					
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <p>日本語指導の必要な児童生徒の増加が続いていることから、よりきめ細やかな指導を行うために、取り出し指導が可能な日本語指導教師の増員が望まれる。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>児童生徒の学校と連携を取り合い、指導計画の見直し・改善を行いながら、個に応じた支援を継続して実施する。</p>																						

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 4

対象年度	2年度	所管課名	教育総務課													
1	基本目標	かしこく やさしく たくましい 子どもの育成														
2	主要施策	8 教育機会の保障														
		8-1【安心して学べる就学援助制度等の支援】 経済的な理由によって学びや進学の手機が妨げられることのないよう、子どもの学びを保障します。														
3	(1)事業等名	就学援助制度の実施														
	(2)事業等の内容	飯塚市内に住所を有し、飯塚市、国若しくは都道府県が設置する小中学校に在籍する児童生徒のうち、経済的理由によって学用品費等の支払いが困難な児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行うことによつて、児童生徒が円滑に義務教育を受けられるようにする。														
	(3)事業等の目標値	小中学校に在籍する要・準要保護の生徒数														
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 市立、県立の小中学校に在籍する全児童生徒の保護者あてに、学校を通じて、就学援助制度のお知らせと申請書の配付を行った。また、市報、ホームページ、SNSに掲載し、制度の周知を図った。小学新1年生については、就学時健診の案内の封筒に制度の説明シラシを同封した。 学校と教育委員会が窓口となり、申請書の受領を行った。教育委員会で集約し、世帯状況と所得状況から判定を行い、対象者を決定し、援助を行う。</p> <p>【成果】 学校を通じて全児童生徒へお知らせと申請書の配付、広報にSNSの掲載を加えたことにより周知が広がり、就学援助利用割合が増加している。</p> <p>【目標値との対比】 目標値は前年度より認定数(%)の増加 全児童生徒数に対し、認定者の割合の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>9,887</td> <td>9,920</td> <td>9,901</td> </tr> <tr> <td>認定者(%)</td> <td>24.7</td> <td>29.1</td> <td>29.3</td> </tr> </tbody> </table>				H30	R1	R2	児童生徒数	9,887	9,920	9,901	認定者(%)	24.7	29.1	29.3
	H30	R1	R2													
児童生徒数	9,887	9,920	9,901													
認定者(%)	24.7	29.1	29.3													
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】 制度の周知徹底や社会の経済状況を反映して、就学援助の受給率は近年増加傾向にある。援助を必要とする児童生徒の保護者に対し、案内に基づく申請と認定を行うこと。</p> <p>【今後の方向性】 援助を必要とする保護者に対し、もれなく制度周知がされるよう、できるだけ多くの広報手段を講じ、申請の必要性を促し、認定が実施できるようにする。</p>														

点検及び評価シート【学校教育分野】

No. 5

対象年度	2年度	所管課名	学校教育課																														
1	基本目標	次代の飯塚市を担う ひとつづくり																															
2	主要施策	2 グローバルに活躍する人材の育成																															
		2-2【英語をはじめとした外国語教育の推進】 外国語でコミュニケーションを図る素質・能力を育成するため、英語力などの実践的な学習の充実を推進します。																															
3	(1)事業等名	小学校英語教育推進事業（オンライン英会話）の実施																															
	(2)事業等の内容	小学校においてオンラインによるマンツーマンでの英会話レッスンを取り入れた授業を行い、聞く・話すを中心とした英語の初歩的な運用能力と英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。																															
	(3)事業等の目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力についての目標値 90%</li> <li>・CanDo 形式アンケート 事前事後の比較 +10%</li> </ul>																															
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 飯塚市立小学校の第5、6学年児童を対象に、1児童あたり月に2回、年間20回のオンラインによるマンツーマンでの英会話レッスンを取り入れた授業を行い、聞く・話すを中心とした英語の初歩的な運用能力とコミュニケーション能力の基礎を養った。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CanDo形式のアンケート結果について、事前事後を比較すると、5、6学年とも「できる」「たぶんできる」の回答割合が増加した。</li> <li>・5、6学年とも楽しそうに会話する姿が見られた。</li> <li>・5、6学年とも表現を工夫しながら、相手に伝えようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>【目標値との対比】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力についての達成率</li> </ul> <p>≪初歩的なコミュニケーション能力についてのアンケート結果（「できる」、「たぶんできる」と回答した割合）≫</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>割合 (A)</th> <th>目標値 (B)</th> <th>達成率 (A/B×100)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">5 学 年</td> <td>持ち物や好きなものを聞かれたら、答えることができる。</td> <td>83%</td> <td>90%</td> <td>92.2%</td> </tr> <tr> <td>自分の誕生日を聞かれたら答えることができる。</td> <td>89%</td> <td>90%</td> <td>98.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6 学 年</td> <td>何がほしいか聞かれたら、食べ物を注文することができる。</td> <td>75%</td> <td>90%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>将来何になりたいか聞かれたら答えることができる。</td> <td>83%</td> <td>90%</td> <td>92.2%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均</td> <td>82.5%</td> <td>90%</td> <td>91.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度末に実施した CanDo 形式のアンケートのうち、初歩的なコミュニケーション能力を問う項目</p>					項目	割合 (A)	目標値 (B)	達成率 (A/B×100)	5 学 年	持ち物や好きなものを聞かれたら、答えることができる。	83%	90%	92.2%	自分の誕生日を聞かれたら答えることができる。	89%	90%	98.8%	6 学 年	何がほしいか聞かれたら、食べ物を注文することができる。	75%	90%	83.3%	将来何になりたいか聞かれたら答えることができる。	83%	90%	92.2%	平均		82.5%	90%	91.6%
	項目	割合 (A)	目標値 (B)	達成率 (A/B×100)																													
5 学 年	持ち物や好きなものを聞かれたら、答えることができる。	83%	90%	92.2%																													
	自分の誕生日を聞かれたら答えることができる。	89%	90%	98.8%																													
6 学 年	何がほしいか聞かれたら、食べ物を注文することができる。	75%	90%	83.3%																													
	将来何になりたいか聞かれたら答えることができる。	83%	90%	92.2%																													
平均		82.5%	90%	91.6%																													



	<p>・ CanDo 形式アンケート 事前事後の比較          ≪全 21 項目におけるアンケート結果（「できる」「たぶんできる」と回答した割合の平均）≫</p> <table border="1" data-bbox="564 203 1431 450"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>事 前</th> <th>事 後</th> <th>比 較 (A)</th> <th>目 標 値 (B)</th> <th>達 成 率 (A/B×100)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 学年</td> <td>56.52%</td> <td>73.76%</td> <td>17.24%</td> <td>+10%</td> <td>172.4%</td> </tr> <tr> <td>6 学年</td> <td>61.19%</td> <td>73.95%</td> <td>12.76%</td> <td>+10%</td> <td>127.6%</td> </tr> <tr> <td>平 均</td> <td>58.85%</td> <td>73.85%</td> <td>15.00%</td> <td>+10%</td> <td>150.0%</td> </tr> </tbody> </table>	学年	事 前	事 後	比 較 (A)	目 標 値 (B)	達 成 率 (A/B×100)	5 学年	56.52%	73.76%	17.24%	+10%	172.4%	6 学年	61.19%	73.95%	12.76%	+10%	127.6%	平 均	58.85%	73.85%	15.00%	+10%	150.0%
学年	事 前	事 後	比 較 (A)	目 標 値 (B)	達 成 率 (A/B×100)																				
5 学年	56.52%	73.76%	17.24%	+10%	172.4%																				
6 学年	61.19%	73.95%	12.76%	+10%	127.6%																				
平 均	58.85%	73.85%	15.00%	+10%	150.0%																				
<p>5 取組・事業の課題、 今後の方向性など</p>	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン接続（25 分間）の事前事後での学習指導が不十分であった。</li> <li>・ 3～4 クラス同時間授業となり、スケジュールリングがかなり難しくなっている。また、以前から継続している、ネットワーク等の通信環境の改善、整備も引き続き対応を要する。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 学年、6 学年の教員を対象としたオンライン英会話研修について、研修内容の見直しを行う。</li> <li>・ 令和 4 年度以降の委託契約についてプロポーザルにおいてより充実した学習になるよう内容を検討する。</li> </ul>																								

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 6

対象年度	2年度	所管課名	生涯学習課													
1	基本目標	いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり														
2	主要施策	1 現代的・社会的な課題に対応した生涯学習等の推進														
		1-3【学習成果を還元する活動等の支援】 学習成果を表現する機会を増やすことで学習意欲を高め、相互の連携・連鎖による地域の「連帯感」が強固となるよう支援します。														
3	(1)事業等名	PTA と連携した家庭教育推進事業の実施														
	(2)事業等の内容	<p>飯塚市小中学校 PTA 連合会は役員、理事、専門委員を置き必要に応じて会長（専門委員長）が招集し会議（委員会）を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会・理事会（会の運営、総括）</li> <li>・総務委員会（教育条件改善等のための活動）</li> <li>・安全調査委員会（児童生徒の安全確保のための活動）</li> <li>・家庭教育委員会（家庭教育の充実のための活動）</li> </ul> <p>【市の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各会議に参画し事業運営に関して適切な指導及び助言を行う。</li> <li>② 補助金の交付（年 2 回に分け支出）</li> </ol>														
	(3)事業等の目標値	家庭教育講演会の実施（年 1 回）及び PTA 活動の充実														
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>市内 29 校の小中学校 PTA の連合組織であり、役員、理事会を中心に各専門委員会への参画をとおして連携した活動を実施。特に毎年 1 回開催している教育講演会に向けては、会議に参画し実施までの支援を行っている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染の影響により開催を中止することを委員会で決定した。</p> <p>【成果】</p> <p>教育講演会の代わりに何かできることはないかと委員会で協議を重ねた結果、これまで各小中学校が成人教育講座や親子で取り組んだ活動等の内容をまとめた「家庭教育実践集」を作成することとなった。（別添資料「家庭教育実践集」）</p> <p>《各会議への参画》</p> <p>役員会・理事会 6 回（会の運営、総括、関係機関との連携等、前年度 9 回）                  総務委員会 3 回（教育条件改善アンケート調査と要望書の提出、前年度 3 回）                  安全調査委員会 3 回（校区内危険箇所調査と管轄期間への要望、前年度 3 回）                  家庭教育委員会 4 回（教育講演会中止の代案検討、実践集作成、前年度 3 回）</p> <p>【目標値との対比】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育講演会 （内容・テーマ）</th> <th>H30 年度</th> <th>R 元年度</th> <th>R2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>筑豊ブロック合同開催 講師：内村周子</td> <td>熱をもって接する 講師：坂本博之</td> <td>「家庭教育実践集」 各小中学校・教育委員会に配布</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>715 人</td> <td>402 人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			教育講演会 （内容・テーマ）	H30 年度	R 元年度	R2 年度		筑豊ブロック合同開催 講師：内村周子	熱をもって接する 講師：坂本博之	「家庭教育実践集」 各小中学校・教育委員会に配布	参加人数	715 人	402 人	
教育講演会 （内容・テーマ）	H30 年度	R 元年度	R2 年度													
	筑豊ブロック合同開催 講師：内村周子	熱をもって接する 講師：坂本博之	「家庭教育実践集」 各小中学校・教育委員会に配布													
参加人数	715 人	402 人														
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <p>課題としては、小中学校の児童生徒数の減少に伴い PTA 会員の減少が考えられる。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>会員の減少、組織が縮小とならないよう PTA 活動の充実を図り地域教育力の増加に向けた活動に対する連携、支援、助言等を継続していく。また、今後もコロナ禍の状況を踏まえ、家庭教育講演会の開催の在り方について継続して協議していく必要がある。</p>														

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 7

対象年度	2年度	所管課名	生涯学習課																																																																												
1 基本目標	いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり																																																																														
2 主要施策	1 現代的・社会的な課題に対応した生涯学習等の推進																																																																														
	1-5【読書活動の推進】 本との出会い、読書の楽しさを伝えるため、図書館ボランティアと連携・協力して読書活動を推進します。																																																																														
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	図書館事業に関する理解と関心の普及・啓発、図書館イベント等の実施																																																																													
	(2)事業等の内容	図書館を取りまく様々な環境の変化に伴い、市民の生活における読書や図書館の位置づけを再考し、あらゆる世代や立場の市民の生活に貢献できる図書館を目指して、サービスを充実させ、各種事業等を展開していく。また、新規事業においても、成果や課題を分析し、次年度以降の図書館運営に生かしていく。																																																																													
	(3)事業等の目標値	・図書館利用状況→前年度数以上 ・講座・イベント（種類・参加）→前年度数以上																																																																													
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】 令和元年度から続いている新型コロナウイルス感染症は第三波第四波と言われる厳しい状況であり、収束に近づくという見通しのもとで計画していた事業を中止あるいは、延期する必要もあり、実際に見直しを進めているものもあるが、今後も市民が安心して利用できる図書館、感染対策をしながら楽しめる図書館として、読書体験についても検討を重ねる必要がある。</p> <p>【成果】 図書館の運営方法においては、「飯塚市民との3つの約束」を日々の図書館運営に反映し、より多くの市民に利用いただける図書館を目指し実行している。講座やイベント等においても、行政各部署、地域の大学・高校、様々な団体との連携を試み、協働事業なども展開しながら、広く市民に成果を示し、次の世代を担う子どもたちに、成長の糧となる経験や学びを提供している。</p> <p>【目標値との対比】&lt;図書館利用状況等&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">飯塚</td> <td>貸出人数</td> <td>79,895</td> <td>77,950</td> <td>59,730</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>338,365</td> <td>341,306</td> <td>279,065</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>280,088</td> <td>196,579</td> <td>132,513</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ちくほ</td> <td>貸出人数</td> <td>19,120</td> <td>18,492</td> <td>14,193</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>79,492</td> <td>77,909</td> <td>62,109</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>51,237</td> <td>45,596</td> <td>35,729</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">庄内</td> <td>貸出人数</td> <td>28,202</td> <td>27,693</td> <td>21,358</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>121,221</td> <td>120,446</td> <td>94,565</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>92,736</td> <td>89,100</td> <td>66,988</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">穂波</td> <td>貸出人数</td> <td>12,328</td> <td>11,890</td> <td>8,135</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>51,591</td> <td>51,540</td> <td>35,216</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>18,217</td> <td>19,313</td> <td>12,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">穎田</td> <td>貸出人数</td> <td>2,095</td> <td>1,787</td> <td>1,314</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>6,860</td> <td>6,475</td> <td>4,537</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>8,089</td> <td>5,488</td> <td>3,503</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>貸出人数</td> <td>141,640</td> <td>137,812</td> <td>104,730</td> </tr> </tbody> </table>						30年度	元年度	2年度	飯塚	貸出人数	79,895	77,950	59,730	貸出冊数	338,365	341,306	279,065	来場者数	280,088	196,579	132,513	ちくほ	貸出人数	19,120	18,492	14,193	貸出冊数	79,492	77,909	62,109	来場者数	51,237	45,596	35,729	庄内	貸出人数	28,202	27,693	21,358	貸出冊数	121,221	120,446	94,565	来場者数	92,736	89,100	66,988	穂波	貸出人数	12,328	11,890	8,135	貸出冊数	51,591	51,540	35,216	来場者数	18,217	19,313	12,800	穎田	貸出人数	2,095	1,787	1,314	貸出冊数	6,860	6,475	4,537	来場者数	8,089	5,488	3,503	合	貸出人数	141,640	137,812	104,730
		30年度	元年度	2年度																																																																											
飯塚	貸出人数	79,895	77,950	59,730																																																																											
	貸出冊数	338,365	341,306	279,065																																																																											
	来場者数	280,088	196,579	132,513																																																																											
ちくほ	貸出人数	19,120	18,492	14,193																																																																											
	貸出冊数	79,492	77,909	62,109																																																																											
	来場者数	51,237	45,596	35,729																																																																											
庄内	貸出人数	28,202	27,693	21,358																																																																											
	貸出冊数	121,221	120,446	94,565																																																																											
	来場者数	92,736	89,100	66,988																																																																											
穂波	貸出人数	12,328	11,890	8,135																																																																											
	貸出冊数	51,591	51,540	35,216																																																																											
	来場者数	18,217	19,313	12,800																																																																											
穎田	貸出人数	2,095	1,787	1,314																																																																											
	貸出冊数	6,860	6,475	4,537																																																																											
	来場者数	8,089	5,488	3,503																																																																											
合	貸出人数	141,640	137,812	104,730																																																																											

計	貸出冊数	597,529	597,676	475,492																																																						
	来場者数	450,367	356,076	251,533																																																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出人数…137,812人以上（前年比：76.0%）</li> <li>・貸出冊数…597,676冊以上（前年比：79.6%）</li> <li>・来場者……356,076人以上（前年比：70.6%）</li> </ul>																																																										
<p>【各種事業の実施状況について】</p> <p>飯塚市立図書館では以下の各種講座・各種イベントを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座等：延べ27回/感染症対策のため中止3回（おはなし会・朗読会等別）</li> <li>・各種事業等：延べ66回（受入等含む）</li> <li>・訪問事業：46回</li> <li>・協働連携事業：15回/感染症対策のため(中止23回)</li> </ul>																																																										
<p>【おはなし会・朗読会】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>館</th> <th>回数</th> <th>参加者数</th> <th>ボラ参加者数</th> <th>中止数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">おはなし会 (0,1,2歳向け英語のお話会含む)</td> <td>飯塚</td> <td>36</td> <td>257</td> <td>58</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>ちくほ</td> <td>24</td> <td>104</td> <td>26</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>庄内</td> <td>25</td> <td>222</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>穂波</td> <td>4</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>穎田</td> <td>9</td> <td>47</td> <td>29</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>98</td> <td>650</td> <td>125</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>大人お話し会</td> <td>飯塚</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">朗読会 (飯塚)</td> <td>朗読会</td> <td>7</td> <td>97</td> <td>35</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9</td> <td>112</td> <td>37</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	館	回数	参加者数	ボラ参加者数	中止数	おはなし会 (0,1,2歳向け英語のお話会含む)	飯塚	36	257	58	13	ちくほ	24	104	26	9	庄内	25	222	10	7	穂波	4	20	2	19	穎田	9	47	29	3	合計	98	650	125	51	大人お話し会	飯塚	2	15	2	2	朗読会 (飯塚)	朗読会	7	97	35	3	合計	9	112	37	5
事業名	館	回数	参加者数	ボラ参加者数	中止数																																																					
おはなし会 (0,1,2歳向け英語のお話会含む)	飯塚	36	257	58	13																																																					
	ちくほ	24	104	26	9																																																					
	庄内	25	222	10	7																																																					
	穂波	4	20	2	19																																																					
	穎田	9	47	29	3																																																					
	合計	98	650	125	51																																																					
大人お話し会	飯塚	2	15	2	2																																																					
朗読会 (飯塚)	朗読会	7	97	35	3																																																					
	合計	9	112	37	5																																																					
5 取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の安全対策を講じながら運営を行う。</li> <li>・利用者がインターネット経由で利用できる電子図書「非来館型サービス」の導入についても検討を行う。</li> <li>・各施設の老朽化が進んでおり、図書館運営に支障をきたさないよう補修計画の随時見直しが必要である。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用促進につながるような事業計画・サービスの工夫</li> <li>・変化していく市民ニーズを図書館運営に反映させ、選書内容や市民向け講座、館内整備などにも工夫が必要である。</li> <li>・増加傾向にある高齢者や障がい者サービスの向上につなげるよう、誰もが利用できるバリアフリー図書館を目指す。</li> <li>・「図書館だより」の工夫やチラシの配布のやり方の変更により、イベント等の周知を行う。</li> </ul>																																																									

点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 8

対象年度	2年度	所管課名	生涯学習課
1 基本目標	いつでも どこでも だれでも 学べる環境づくり		
2 主要施策	2 学社連携の推進		
	2-2【地域の人材及び大学・団体との連携の促進】 地域の人材を活用して、積極的に高齢者や地域住民との交流を図るとともに、学社連携を推進します。		
3 取組・事業の内容	(1)事業等名	放課後子ども教室や児童クラブ等との連携	
	(2)事業等の内容	<p><u>A 放課後子ども教室（所管：生涯学習課）</u> すべての児童を対象として放課後や週末等に小学校の余裕教室や交流センター等を活用し地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ・文化芸術活動等の機会を提供する。</p> <p><u>B 児童クラブ（所管：学校教育課）</u> 保護者が就労等により昼間家庭にいない小学1年生から小学6年生の児童を預かり、放課後等に健全な「遊び」及び「生活」の場を提供して、児童の健全な育成に資するため放課後児童クラブを運営する。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>A：放課後子ども教室年間開催回数／1380回(2年度目標値)=100%（目標値）</p> <p>学校・A・B合同連携会議の実施回数／2回(2年度目標値)=100%（目標値）</p>	
4 取組状況・成果・目標値との対比など	<p><b>【取組状況】</b></p> <p>《放課後子ども教室推進事業の取組み》 市内の小学1年～6年生を対象とし、放課後や週末（土曜日）に小学校の余裕教室を活用し、各学校・地域との連携を深めながら積極的な学習意欲を支援する一方、高齢者など異なる年齢層者との交流を持つことにより、優しさや積極性・協調性などを身につけ、社会生活の中で必要となる「生きる力」と「心豊かな成長」を子どもたちが体得できるよう支援する。</p> <p>《各小学校・A・B合同の連携会議》 放課後児童クラブ（学校教育課担当職員）と各小学校（教職員）は、月1回の連携会議を実施している。その連携会議に放課後子ども教室（生涯学習課担当職員）を加えて協議の場をもつことにより、学校行事の把握、障がい児童への対応事案や施設の利用など、学校を含めた情報共有の強化を図ることができる。 連携会議の共同開催は令和3年1月に起案し、令和3年度から実施できるよう準備段階中である。</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>《放課後子ども教室推進事業の取組み》 学習プログラムの提供については、子ども会指導者等をボランティアとして活用している地区もあり、地域との繋がりが深まったといえる。しかし、緊急事態宣言措置期間の社会教育事業を中止した影響により年間開催数については令和元年度、令和2年度ともに減少している。</p>		

	<p>《各小学校・A・B 合同の連携会議》 放課後子ども教室事業の運営を担当する各交流センター職員や地域活動指導員に、連携会議開催に向けての説明や調整が十分に行われていないため会議開催に至っていない。</p> <p><b>【目標値との対比】</b></p> <table border="1" data-bbox="564 389 1430 595"> <thead> <tr> <th>放課後子ども 教室事業</th> <th>R 元年度</th> <th>R2 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間開催数</td> <td>1,088 回／1,380 回(78.8%)</td> <td>503 回／1,380 回(36.5%)</td> </tr> <tr> <td>合同の連携会議 開催数</td> <td>-----</td> <td>0 回／2 回 (0%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※目標値 1,380 回は、平成 30 年度実績数を目標値に設定</p>	放課後子ども 教室事業	R 元年度	R2 年度	年間開催数	1,088 回／1,380 回(78.8%)	503 回／1,380 回(36.5%)	合同の連携会議 開催数	-----	0 回／2 回 (0%)
放課後子ども 教室事業	R 元年度	R2 年度								
年間開催数	1,088 回／1,380 回(78.8%)	503 回／1,380 回(36.5%)								
合同の連携会議 開催数	-----	0 回／2 回 (0%)								
<p>取組・事業の課題、今後の方向性など</p>	<p><b>【課題】</b></p> <p>《放課後子ども教室推進事業の課題》 放課後子ども教室を実施する運営スタッフ（学習プログラムを実施する講師、児童の安全を管理する安全管理サポーター）の確保が困難になっている。</p> <p>《学社連携会議の課題》 学校、児童クラブ、放課後子ども教室による学社連携会議は、まだ開催に至っていない。</p> <p><b>【今後の方向性】</b> 学習プログラム講師については、「生涯学習ボランティアネットワーク講師一覧」の活用や「各地区子ども会指導者」に再度周知し、各地区の登録講師一覧（放課後子ども教室用）の作成に取り組む。安全管理サポーターについては、各地域の交流センターサークルに対し事業の周知を図る。また、子どもたちの祖父・祖母の世代にも周知を図り、安全管理サポーターの登録一覧作成に取り組む方向である。 学社連携会議の共同開催については、まだ実現していないが、学校及び学校教育課との調整を得て早期開催を目指す。これにより、新型コロナウイルス感染症対策等の問題においても共有認識を深めることにつながり、一体的な放課後児童育成事業の推進を図ることができると考える。</p>									

## 点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 9

対象年度	2年度	所管課名	文化課
1	基本目標	個性豊かな 新しい文化の創造	
2	主要施策	1 文化の振興・文化財の保護	
		1-1【文化の振興】 飯塚市文化振興マスタープランの基本理念である「個性豊かな新しい文化の創造」の実現に向けて文化芸術活動の充実を図ります。	
3	(1)事業等名	文化会館や市庁舎をはじめとする他の公共施設における様々な文化芸術事業の充実	
	(2)事業等の内容	<p>飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）、飯塚市役所多目的ホール、イイヅカコミュニティセンター等の公共施設において、飯塚新人音楽コンクール、飯塚総合文化祭、飯塚市小学校児童画展等の文化芸術活動を実施する。</p> <p>事業の実施にあたっては、飯塚文化連盟や文化団体等と連携し、公共施設において活動の成果等を広く市民に発表することにより、文化芸術活動の振興を目指す。</p> <p>また、飯塚市文化会館の指定管理者である飯塚市教育文化振興事業団により自主文化事業を実施する。</p>	
	(3)事業等の目標値	<p>①新人音楽コンクール入場者数 1,500 人</p> <p>②飯塚総合文化祭（飯塚市美術展）出展数 140 点</p> <p>③飯塚市小学校児童画展入場者数 1,850 人</p> <p>④飯塚市役所多目的ホール活用回数 2 回</p> <p>⑤飯塚市教育文化振興事業団による自主文化事業参加者数 12,000 人</p>	
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>①例年 5 月 3・4・5 日に予選を、6 月の第一日曜日に本選を開催している飯塚新人音楽コンクールについては、前年を上回る数の出場応募があったが、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い、急遽開催を中止した。</p> <p>②10 月中旬から 11 月下旬にかけて開催予定であった飯塚総合文化祭については、公共施設の利用が大きく制限され、文化祭に向けての練習・準備が十分にできないことや、ステージ部門において 3 密を避けることが困難であることから全会場において開催を中止した。</p> <p>③2 月下旬に実施を予定していた飯塚市小学校児童画展については、作品の借用元である福岡県児童画展が中止となったため、それに併せて事業を中止することとなったが、事業実施のために予約していた飯塚コスモスコモンの展示ホールを活用し、2 月 27 日（土）・28 日（日）に飯塚市が所有している美術作品のうち、筑豊地区にゆかりのある作品を展示する「筑豊ゆかりの絵画展」を開催した。</p> <p>④飯塚市役所多目的ホールを活用した事業としては、池坊飯塚橋支部との共催で 10 月 4 日（日）・5 日（月）に「華道家元池坊飯塚橋支部市民公開巡回講習」を開催した。池坊の家元から派遣</p>	

	<p>された講師による講習会を市民一般に公開し、講師が生けた作品を展示することにより、市民一般に広く鑑賞してもらった。</p> <p>⑤飯塚市教育文化振興事業団における自主文化事業については、コロナ禍で中止をせざるを得ない事業もあったが、3密対策を取りながらの事業の実施や、オンラインによる講演や演奏会の実施等、コロナ禍に応じた新たな方法を模索しながら事業を展開した。</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>①②新型コロナウイルス感染症の影響により、飯塚新人音楽コンクールや飯塚総合文化祭等、多くのイベントが中止を余儀なくされたが、次年度の開催に向けて、コロナ禍に応じた実施方法の検討を行うことができた。</p> <p>③「筑豊ゆかりの絵画展」では、各公共施設において展示・保管を行っており、普段市民の目に触れることの少ない美術作品の中から、筑豊にゆかりのある作品を中心に集めて絵画展を実施した。</p> <p>会場には絵画等の作品を 31 点、炭鉱の生活を描いた色紙を 122 点展示し、1 日目は 78 人、2 日目は 158 人、計 236 人の来場者に作品を鑑賞してもらった。市民が美術作品に触れる機会を提供するだけでなく、「当時の風景を懐かしみながら楽しむことができた」という声も多くあり、筑豊にゆかりのある作品を通じて地元への愛着を深めてもらうことができた。</p> <p>④池坊飯塚橋支部と共催で実施した「華道家元池坊飯塚橋支部市民公開巡回講習」については、1 日目の公開講習で池坊飯塚橋支部の会員や一般参加者等を合わせて 63 人（うち一般参加者 10 名）が参加した。2 日目の講師による生け花展示では、市庁舎を訪れた人々を中心に 112 人が鑑賞し、華道文化の向上につながった。</p> <p>⑤飯塚市教育文化振興事業団による自主文化事業では、延 41 件の事業を展開し、合計 4,766 人が事業に参加した。芸術鑑賞事業や参加育成事業、出前講座事業等、様々な形態の自主文化事業の企画・実施を通して、市民文化の向上及び充実が図られた。</p> <p><b>【目標値との対比】</b></p> <p>①新人音楽コンクール入場者数 0%（事業中止のため）</p> <p>②飯塚総合文化祭（飯塚市美術展）出展数 0%（事業中止のため）</p> <p>③「筑豊ゆかりの絵画展」を実施 236 人来場</p> <p>④飯塚市役所多目的ホール活用回数 50%</p> <p>⑤自主文化事業参加者数 39.7%</p>
<p>5 取組・事業の課題、今後の方向性など</p>	<p><b>【課題】</b></p> <p>飯塚新人音楽コンクールや飯塚総合文化祭等については事業が中止となったことにより 2 年の間が空くこととなるため、次年度以降、事業への参加者等が減少しないように広報・周知を充分に行う必要がある。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>文化活動の発表の場や体験の場を継続していけるよう、コロナ禍に応じた新たな事業の形を模索し、事業を実施していく。</p>



## 点検及び評価シート【社会教育分野】

No. 10

対象年度	2年度	所管課名	文化課									
1	基本目標	個性豊かな 新しい文化の創造										
2	主要施策	1 文化の振興・文化財の保護										
		1-2【文化財保護の普及啓発】 歴史と伝統に培われた貴重な文化資源を永く後世に伝えるため、文化財保護活動の充実や情報提供等、文化財に対する理解を深める施策を推進します。										
3	(1)事業等名	歴史講座、古文書講座、体験学習会等の開催										
	(2)事業等の内容	飯塚市歴史資料館では、郷土の歴史・文化財に対する市民の理解と認識を深め、市民の文化活動、生涯学習に寄与することを目的として、考古資料その他の文化財の収集・調査・保存・活用、講座（歴史講座、古文書講座、おもしろ体験歴史館）等教育普及活動を実施している。										
	(3)事業等の目標値	延べ受講者数：495人										
4	取組状況・成果・目標値との対比など	<p>【取組状況】</p> <p>歴史講座では、「飯塚の歴史と文化」をテーマに、郷土の歴史・文化財について学習する講義（6回）を実施した。</p> <p>古文書講座では、江戸時代の飯塚市域に関する文献史料をテキストにして学習する講義を、初級コース（3回）・中級コース（3回）の計6回実施した。</p> <p>おもしろ体験歴史館では、小・中学生を対象にした歴史体験学習教室（2回）を実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各講座とも募集人数を例年より減らして実施した。</p> <p>【成果】</p> <p>歴史講座、古文書講座、おもしろ体験歴史館を実施し、市民に郷土の歴史・文化財に対する認識を深めるための学習機会を提供することができた。特に古文書講座では、受講者のニーズに合ったテーマで実施できたため、古文書自主学習会への参加者が増加した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集人数を例年より減らして実施したため、延べ受講者数は前年度より減少した。</p> <p>【目標値との対比】</p> <p>延べ受講者数達成率 39%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ受講者数</td> <td>401</td> <td>201</td> <td>195</td> </tr> </tbody> </table>				平成30年度	令和元年度	令和2年度	延べ受講者数	401	201	195
	平成30年度	令和元年度	令和2年度									
延べ受講者数	401	201	195									
5	取組・事業の課題、今後の方向性など	<p>【課題】</p> <p>今後も受講者のニーズに合った内容の講座を実施するように努める。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>今後も講座等を実施し、文化財保護の普及啓発に努める。</p>										

## 参考資料

### 1 令和2年度 教育委員会会議付議案等一覧

#### (1) 教育委員会会議付議案件

件 名	提出日
教育長職務代理者の指名	R2.4.7
臨時代理の承認(令和2年度事務局職員の人事異動等)	R2.4.22
臨時代理の承認(飯塚市教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則)	R2.4.22
教育財産の用途廃止(旧穂波東中学校)	R2.4.22
飯塚市立小中一貫校長の任命	R2.4.22
令和2年度教育に係る補正予算	R2.5.22
教育財産の用途廃止(筑穂中学校敷の一部)	R2.5.22
飯塚市立学校管理規則の一部を改正する規則	R2.5.22
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R2.5.22
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R2.5.22
臨時代理の承認(令和2年度教育費に係る補正予算要求)	R2.6.24
飯塚市学校施設長寿命化計画の策定	R2.6.24
飯塚市立学校通学区域審議会委員の委嘱又は任命	R2.6.24
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R2.6.24
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R2.6.24
飯塚市心身障がい児(生)就学指導委員会委員の委嘱又は任命	R2.6.24
飯塚市いじめ・不登校問題連絡協議会委員の委嘱又は任命	R2.6.24
飯塚市社会教育委員の委嘱	R2.6.24
飯塚市図書館運営協議会委員の任命	R2.6.24
飯塚市公民館運営審議会委員の委嘱	R2.6.24
飯塚市文化財保護審議会委員の委嘱	R2.6.24
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱又は任命	R2.7.15
飯塚市社会教育委員の委嘱	R2.7.15
飯塚市文化振興審議会委員の委嘱	R2.7.15
臨時代理の承認(令和2年度教育費に係る補正予算)	R2.8.19
令和2年度教育費に係る補正予算	R2.8.19
令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択結果	R2.8.19
目尾炭坑跡保存活用計画策定委員会設置要綱の制定	R2.9.29
飯塚市給食運営審議会委員の委嘱	R2.10.19
令和2年度教育に係る補正予算	R2.11.17
飯塚市教育委員会事業評価結果(令和元年度分)	R2.11.17
飯塚市公民館条例施行規則の一部を改正する規則	R2.11.17
飯塚市文化振興審議会委員の委嘱	R2.11.17
令和3年度教育費に係る当初予算	R3.2.19
教育財産の用途廃止(旧穂波東中学校グラウンド敷)	R3.2.19
令和3年度教職員の人事異動等	R3.3.25
令和3年度飯塚市教育施策要綱	R3.3.25

飯塚市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	R3.3.25
飯塚市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正 する規則	R3.3.25
飯塚市立学校管理規則の一部を改正する規則	R3.3.25
飯塚市学校運営協議会委員の任命	R3.3.25

(2) 教育委員会会議報告案件

件 名	提出日
令和元年度飯塚市一般会計補正予算及び学校給食事業特別会計補正予算(令和 2 年 3 月 20 日専決処分)について	R2.4.22
令和 2 年度飯塚市「学校開放日」、運動会・体育会及び修学旅行の日程等について	R2.4.23
飯塚市放課後児童クラブの名称及び定員の告示について(補助執行事務)	R2.4.24
臨時休校に伴う 3 月分の給食費の確定について	R2.4.25
古墳等保存活用計画の策定について	R2.4.26
令和 2 年度飯塚市一般会計補正予算 (令和 2 年 4 月 28 日及び 30 日専決処分)について	R2.5.22
臨時休業による給食停止に伴う 4 月分の給食費について	R2.5.22
令和元年度版 飯塚市の生涯学習の体系の作成について	R2.5.22
令和 2 年第 2 回飯塚市議会臨時会の結果について	R2.6.24
大規模改造工事及び解体工事について	R2.6.24
飯塚市奨学資金貸付基金条例施行規則の一部改正(補助執行事務)	R2.6.24
飯塚市奨学資金貸付審議会委員の委嘱(補助執行事務)	R2.6.24
令和 2 年第 3 回飯塚市議会定例会の結果について	R2.7.15
飯塚市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例 (補助執行事務)	R2.7.15
飯塚市小・中学校給食残さい率について	R2.7.15
令和 2 年第 4 回飯塚市議会臨時会の結果について	R2.8.19
令和 2 年第 5 回飯塚市議会定例会の結果について	R2.9.29
飯塚市立小中学校修学旅行に関する追加費用等補助金交付要綱の制定(補助執行事務)	R2.9.29
令和 2 年度飯塚市一般会計補正予算 (令和 2 年 9 月 28 日専決処分) について	R2.10.19
令和 2 年度飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申について(補助執行事務)	R2.10.19
令和 2 年度飯塚市成人式の実施について	R2.10.19
旧伊藤家住宅の重要文化財 (建造物) 指定に係る答申について	R2.10.19
令和 2 年第 6 回飯塚市議会定例会の結果について	R2.12.22
飯塚市庄内生活体験学校の臨時休館日の試行的実施について	R2.12.22
令和 2 年度 第 2 回飯塚市奨学資金貸付審議会に係る諮問及び答申について(補助執行事務)	R3.1.14
旧伊藤伝右衛門邸の重要文化財指定について	R3.1.14
飯塚市学校教育プラン R3 の策定について	R3.2.19
学校給食調理等業務の受託候補者特定について	R3.2.19

令和2年度飯塚市成人式の結果報告について	R3.2.19
心身障がい児(生)の就学等について	R3.3.25
令和3年度からの中学校外国語指導委託業者の決定について	R3.3.25
学校給食費滞納に対する法的措置の専決処分について	R3.3.25
飯塚市庄内生活体験学校臨時休館日の試行的実施の延長について	R3.3.25